

新LPWA 水道検針特化型を投入

NTT「グッとびくん・W」

NTTテレコン(本社・東京、深澤充社長)は、水道遠隔検針ソリューションのさらなる普及拡大に向け、水道メーター直結型で防水・防塵性に優れた新LPWA端末「グッとびくん・W」の写真の販売を2日から開始した。

これにより、豪雪地域など、水道メーターボックスが雪で埋まるなど検針が困難になる「難検針エリア」にも提供の幅が広がり、水道事業のDXに寄与する。

水道業界では、自治体による運営業務のひとつとして、いまだに検針員が各家庭の水道メーターを回り、ハンディーターミナルなどで検針を行っ



ている実態があり、検針員の後継者不足、高齢化に伴う慢性的な人手不足などで業務効率化が喫緊の課題となっている。

NTTテレコンでは、10年以上前から自動検針・集中監視「テレコンスマートサービス」で、水道遠隔検針を提供しており、自動検針による稼働削減を実現してきた。従来型の端末は、防水保護等級IPX4(防沫形、水の飛沫に対する保護)相当で、基本的に地面の下に設置されている水道ボックス内の水道メーターに接続して提供することが防水性の観点から難しかった。特に豪雪地帯

多く、水道ボックス内に収まり、かつそれに耐えられるだけの防水性にも優れた端末の必要性が求められていた。

新発売のグッとびくん・Wは、水道メーターボックス内に設置し、水道メーターと直結させるタイプの端末で、防塵性では塵埃の侵入がなく、防水性では一時的に水中に沈めた場合でも機器が影響を受けない、IP67相当の高い防水防塵性を実現したのが最大の特徴。

積雪時に検針が困難になる難検針エリアや、水道メーターボックスが雪の下に埋没した場合でも高い検針率で安定動作する。水道遠隔検針システムは、発信機能付き水道メ

ーター、あるいは遠測表示器(豪雪地域で雪に埋もれない高さまで引き上げて表示する表示器)に通信端末を接続することで、NTTテレコンが提供する集中監視システムで自動検針業務を実現するサービス。

定期検針、随時検針の機能のほか、漏水警報やロードサーベイ機能など豊富なメニューで水道事業の諸課題を安心・安全・スピーディーに解決する。サービスの提供エリアは、国内でNTTドコモのLTE通信が広がるエリア。

水道業界は自治体ごとの方針が異なるため、通信非対応のエリアも多く、通信対応可能な自治体でも難検針エリア対応の課題もあったが、今般の新製品で難検針エリア対応が実現できる。同社では今後も水道業界全体の発展に向け、遠隔検針ソリューションの付加価値向上を目指す。